

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	36	大学等名	京都光華女子大学短期大学部
テーマ	テーマⅠ・Ⅱ複合型		

### （「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

#### 【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

#### 【コメント】

大学教育の加速については、正課のみならず、正課外の学修もアクティブ・ラーニングの理念を基に推進している。具体的には、全教員に対するALマスター制度の導入により、正課におけるアクティブ・ラーニングの推進を更に深めているほか、正課外にもそのエッセンスを取り入れ、包括的に学生を育成していくことが体系的に構築されている。加えて、当該大学のアクティブ・ラーニング科目の代表である「プレゼンテーション演習」のエッセンスが取り入れられた新入試の実施が計画されるなど、本事業における取組の延長線上として、アクティブ・ラーニングが入試領域にも広がりを見せていることも高く評価できる。また、ディプロマ・ポリシーを核として、カリキュラムの成果が新システム「総合的評価提示システム Me-L（以下、「Me-L」という）」の開発により可視化されていることも高く評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、ディプロマ・ポリシーに基づく学修成果可視化システムである「Me-L」により、カリキュラムのチェック機能の強化が図られていることに加え、学生自身のPDCAサイクルを回すエビデンスとして提供されていることは評価できる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、補助期間中に事業推進状況の管理のため設置され、本事業での活動の拠点であった「APワーキンググループ」の後継組織として、「学科IRワーキンググループ」が設置されたことで、特に本事業での特長であった学修成果の可視化に関する取組が着実に継続される体制が整ったと評価できる。補助期間終了後も引き続き取組を継続し、更なる教学マネジメントの推進が期待される。

事業成果の普及については、短期大学という密なカリキュラムにおいて、どのように効果的に学生を育成するか、といったことに真摯に向き合い、他の短期大学のモデルになり得る取組となったと言える。事業最終年度の全体報告会の中止は残念であったが、テーマⅠ・Ⅱ複合型の幹事校として他の選定校と連絡を取りながら知見の集約に当たったことは高く評価できる。また、当該大学の呼びかけで始まった「短大フォーラム」によって、短期大学同士が横に連携する中で、教職員のみならず学生同士も交流するシステムが構築されたことによって本事業で得られた知見の周知・普及が見込まれる。